

ひびきあい

vol.56

発行責任者：岡村斉能
編集：全シ連広報委員会

〒270-1121 我孫子市中峰1604-94
TEL/FAX 0471-88-3322

e-mail : info@npo-jse.org <http://npo-jse.org/>

全シ連の発展を願って

丸林実千代（日本女子大学）



私は全シ連が全国組織として結成された当初から、皆様方の活動には興味を持っており、多くの会員の方々に研究面でご協力をいただいております。皆様の10年以上にわたるご厚意に心より感謝申し上げます。

私は全シ連の活動以外に、地域合唱団、地域に根差したオペラ団体、また様々な音楽ジャンルの愛好会などともお付き合いさせていただいております。そして、これらの方々の音楽活動に対する熱意や創意工夫への、私自身の感銘・感動が私の研究の原点になっています。

さて人間は、はるか昔から音楽と自由に対話をしながら自己形成をし、そして音楽を発展させてきました。その過程で人々は音楽への同調性などを要因として音楽的集団を結成し発展させますが、時には分裂、解散を繰り返しています。さらに、そこからまた新規結成も行われます。人はこの変化の時期に身を置いた場合、非常に大きなストレスを感じ、また多大なエネルギーを必要とします。そのため、この反復現象に負のイメージを持っている方も多いようです（これは私の研究活動の中で実感し、確認しております）。しかし音楽集団の結成・発展・分裂・解散などの反復現象を、人間の音楽との自由な営みという観点から俯瞰した場合、それが極めて自然な事象であることに気づきます。そこで、人々が集団で音楽活動を志向する時、負のイメージによる痛みを恐れず、個々人が勇気をもって立ち向かっていただきたいと思うのです。このような意思をもった人々が集い音楽活動を展開することによって、色々な意味で質の高い濃厚な時間を過ごすことができるを考えます。そして、そこで奏でられる音楽は極めて創造的であり、その音楽によって人間はさらに成長を遂げるでしょう。

しかし、このような音楽活動において留意しなくてはならない点がいくつかあります。その中の1つとして、ここでは「音楽的弱者への配慮」を指摘しておきたいと思います。音楽活動を希望しているものの健康的・経済的・生活的、そして音楽的力量などを理由として困難な状況にある方も多数存在します。その方々も自己のレベルで音楽と触れ合う権利はあります。そこで、音楽的弱者の権利を保障できるような音楽活動を恒常に展開できる集団が、真に成熟した音楽団体といえるでしょう。

全シ連の活動は、音楽団体として成熟を目指す素晴らしいものと、私は信じております。連盟のさらなる発展と、会員皆様の自由で創造的な音楽活動を期待しております。